



みなさんは、日々の暮らしの中にご近所付き合いや気の合う仲間がいますか？
5年後、10年後に向けて「住みやすい、住んでいてよかった。」と思える、人と人との「つながりのある地域」をめざし「地域のお宝」として、ご紹介していきます。

取材先

◇沢野地区 不動公園ラジオ体操



不動公園では、ご自身の健康維持のため、小林保平さんが2009年から不動公園で早朝のラジオ体操を始めました。そこに近所の方や散歩中の方々が次々と加わり、「地域の輪」が広がっていきました。中には中学生と小学生になった姉妹や宝泉地区から自転車で参加している方もおり、世代や地域の垣根を超えた交流の場になっています。

左の写真は常連の体操メンバーです。高林西町の小林保平さん(85) 志村国太郎さん(76) 田口充男さん(72) 今泉せきさん(74)、牛沢町の今井福治さん(76) 大沢昭雄さん(71)、宝泉泉町の星野薫さん(70)が参加しています。

不動公園ラジオ体操の発起人である小林保平さんは、自宅近くの2箇所家庭菜園をしています。家庭菜園では、じゃがいも・さつま芋・里芋など多くの野菜を育て、体操に通うメンバーに作業を手伝ってもらったり、おすそわけしたりしています。

小林さんは「ラジオ体操は、毎日つづけることで1日の生活リズムも整うので大事なこと」「コロナだからといって引きこもったり、ただ歩いているだけではなく、人と会話することが大事」と話します。公園の石拾いや草むしりも率先して行い、小林さんのおかげで公園は綺麗に保たれています。



「集める」から「集まる」へ



現在は10名前後の地域住民が毎朝自主的に集まり身体を動かしています。また、夏休みには育成会のラジオ体操に参加する親子とともに汗を流します。朝6時20分頃になると続々と人が集まり、小林さんの持参した2つのラジオを木に引っ掛け、6時30分になるとNHKのラジオ放送に合わせ、ラジオ体操第一、第二と続けて約10分間運動します。

雨天の日や冬場の12月・1月・2月は、体調面を考慮しお休みにしていますが、それ以外はコロナ禍でも毎日開催し、交流を深め、いつも来ている人が来ていなければ、どうしているか気にかけています。恥ずかしくて公園に来れない近所の方も、自宅前から参加したり、音に合わせて自宅の中から体操をしたりしています。

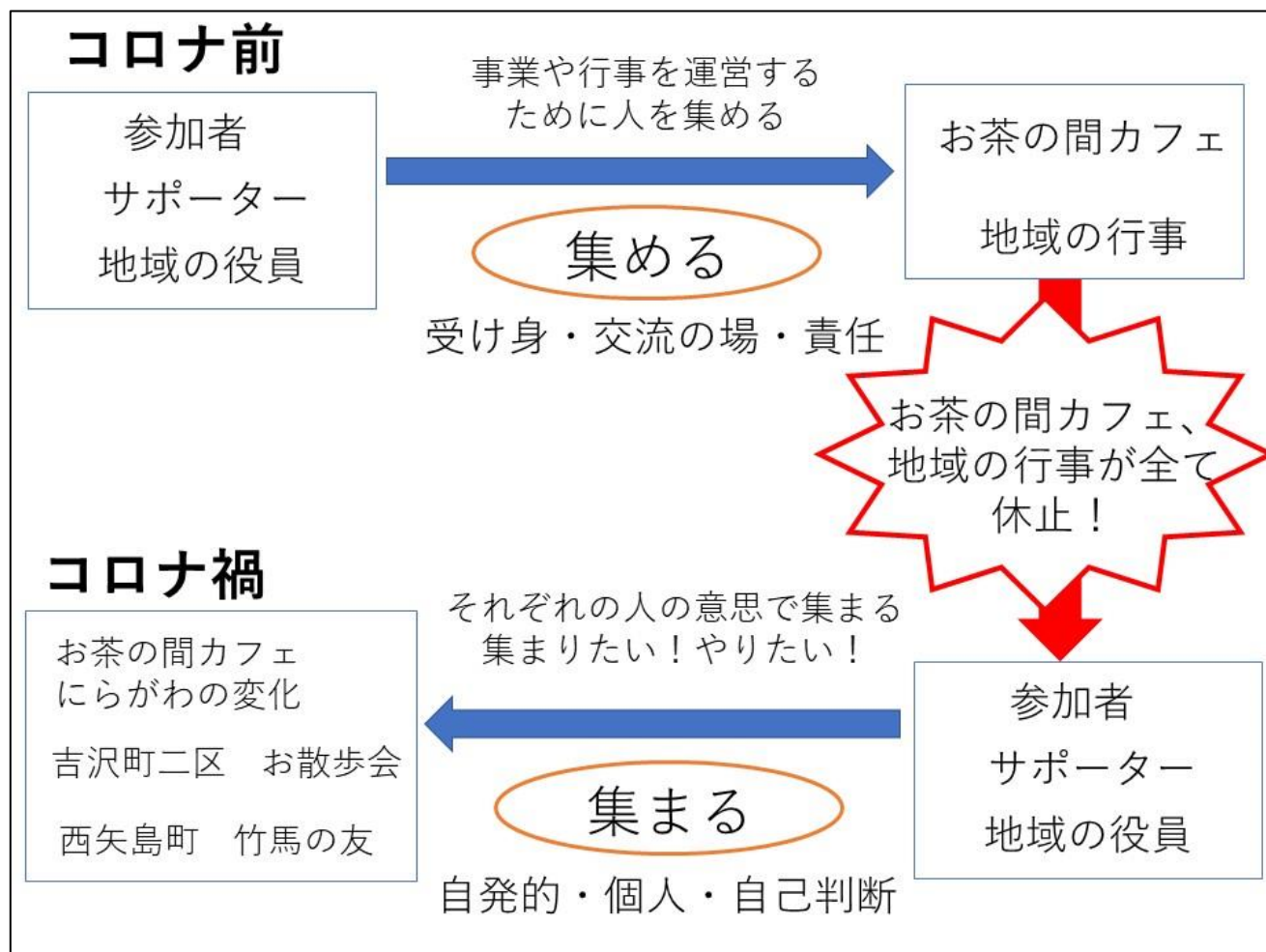
つながるポイント

＊コロナ禍でも、顔が見える関係や気にかけて合える関係が、より一層つながりを強め、毎朝緩やかな見守りが行われラジオ体操から1日が始まります



地域のお宝発見 ～太田市生活支援体制整備事業～

コロナ禍による【新しいつながり】



上の図は新しいつながりを表したものです。

コロナ前は、お茶の間カフェや地域の行事を運営するために人を**集めていました**。集めると参加者と運営者に分かれ、参加者は受け身になり、運営者には責任が生じます。不特定多数の人が参加するため、参加者同士、運営者同士、あるいは参加者と運営者の間で交流が生まれ、つながりのきっかけにもなります。

しかし、コロナによって事業や地域の行事が中止になると、今まで参加者、運営者に分かれていた垣根がなくなり、集まりたい、何かやりたいという一人一人の自発的な意思で**集まるようになります**。そのため、個人のつながりが生まれてきます。集まる時は自分の判断で集まります。

今までの集めるやり方から形を変えて、新しく集まるつながりに変化しました。

コロナをきっかけに参加者と運営者という垣根がなくなり、集まる方の意思が尊重された集まりになりました。

お宝情報を募集中！「私の近所でこんな取り組みをしている」「こんな工夫をして気にかけて合っている」など、あなたの地域のつながりを教えてください！情報をお持ちの方は下記お問い合わせまで、よろしくお願いします！



詳しくはこちら

★生活支援コーディネーターから一言★

お問い合わせ
太田市社会福祉協議会 地域福祉係
〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549
TEL 0276-30-0033 FAX 0276-30-0032